



平成29年9月1日

各位

会社名 株式会社 リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員 経営企画部長 中村恵美子
TEL. 03-3440-3745

RIBOMIC USA Inc.の CEO 選任のお知らせ

当社および当社の子会社である RIBOMIC USA Inc. は、本日開催の取締役会にて、ユスフ・アリ氏 (Yusuf Ali, Ph.D.) を RIBOMIC USA Inc.の CEO、ならびに当社の執行役員に選任することを決議いたしましたので、お知らせいたします。就任日は2017年9月15日となります。

アリ氏は、様々な疾患領域での臨床開発に関して、国際的かつ広範囲の実績を有しており、とりわけ眼科領域での開発を専門としています。アリ氏は、直近では米国の Santen Inc. (参天製薬株式会社子会社) の Senior Vice President として、様々な種類の眼科用新薬の開発を主導しました。30年以上にわたり医薬品開発に従事する中で、アゾプト®、パタノール® を含めた各種製品の上市 (発売) を達成しています。

アリ氏の就任は、当社の発展と企業価値の向上に大きく貢献するものと期待しています。特に、当社は、自社製品の抗 FGF2 アプタマー (RBM-007) を用いた、加齢黄斑変性症を対象疾患とする治験を計画しており、RBM-007 は従来の治療体系を覆す大きな市場を形成する可能性があります。アリ氏はその開発において主導的な役割を担います。

加えて、アリ氏は医薬品の探索研究および開発における科学的専門知識を有し、製薬業界やアカデミア、政府機関とのコネクションも豊富であることから、リボミックの既存のパイプラインのライセンスアウトやグローバル企業との新規共同研究を含めた事業開発全般においても、今後主導的な役割を果たしてまいります。

リボミック代表取締役社長中村義一のコメント：

この度、ユスフ・アリ博士が RIBOMIC USA Inc.の CEO としてリボミックに参画してくれることとなり、我々は非常に興奮しています。彼は臨床開発及びライセンスビジネスにおける豊かな経験を有し、多くの事業を成功に導いています。リボミックが米国における戦略的拠点を確立し、国際的な活動を推進するうえでユスフが素晴らしい役割を果たすであろうことを確信しています。

就任に際してのアリ氏のコメント：

リボミックの医薬品開発は、今エキサイティングな段階を迎えており、今ここでリボミックに加わることができたことを、非常に喜ばしく思っています。リボミックのパイプラインのうち、とりわけ着目されるのは、加齢黄斑変性症のファースト・イン・クラスの医薬品候補品です。この候補品は、加齢黄斑変性症を患い、現状の治療では満足な効果を得られていない患者様、またその家族に、重要な新規治療法を提供できるポテンシャルを有しています。リボミックの経験豊かな経営陣、また内外のパ

ートナーと手を携え、リボミックの研究開発をさらに加速させ、眼科疾患やその他の疾患の治療薬として、パイプラインを進捗させることを楽しみにしています。



【ユスフ・アリ博士 (Yusuf Ali, Ph.D.) 経歴】

アリ博士は医薬品業界での 30 年以上にわたるグローバルな新薬開発経験を有しています。直近では、アリ博士は、参天製薬株式会社の米国子会社における研究開発担当の Senior Vice President ならびにグローバル機能における Biomedical Science の Head として、網膜疾患、緑内障、ドライアイ等の治療薬開発を主導しました。

それ以前には、アリ博士は、GOJO Industries に 6 年超在職し、新薬開発部門の副社長として、ピュレル® を含むスキンケア製品の開発で重要な役割を

果たしました。さらにそれ以前には、アルコン・ラボラトリーズに 14 年超在職し、マネージメントチームの一員として、アズプト®、パタノール®、トラバタンズ®、シプロフロキサシン® 等の眼科医薬の製剤化、ドラッグデリバリー、プロセス開発に携わりました。アリ博士は眼科領域での 25 件以上の国際的な特許権を保有しており、またフロリダ大学にて化学工学博士号を取得しております。

株式会社リボミックについて

株式会社リボミックは、次世代新薬として注目されている核酸医薬の一種「アプタマー医薬」の開発を目的とする、創薬プラットフォーム系バイオベンチャーです。当社の創薬基盤技術である「RiboART システム」は、様々なアプタマー医薬の開発に応用することが可能です。株式会社リボミックは疼痛・眼疾患・線維症を始めとして、広い領域の Unmet Medical Needs (未だに満足すべき治療法のない疾患領域の医療ニーズ) に対する新薬の提供を目指してまいります。